

報告1 平成21年度妻木晩田遺跡発掘調査成果

窪地1 (SI115)

指導内容	指導に対する結果及び調査状況
<ul style="list-style-type: none"> 地山面まで断ち割りを入れ、建て替えの状況についてシンプルに説明できるようにする。 東側斜面部の遺構と思われる箇所にも断ち割りを入れ、遺構かどうかを確認する。 周堤や部材の据え付け痕跡等を確認できる可能性があるため、その認識を持って調査を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 2回の建て替えを確認(前回の見解を修正)。 最終段階の竪穴住居跡の時期は弥生時代終末期後半(- 2)。 最終段階の床面の規模は東西6.1m。平面形は隅丸方形、推定床面積は29㎡程度。 住居西側には東西1.1m、深さ0.9mの土坑を確認。埋土上層からは弥生土器片、炭が出土。建て替え前の竪穴住居跡に伴う可能性がある。 堆積状況は1～5層までは自然堆積、14～16層は人為的な堆積と推定。自然科学分析を実施。 東側斜面部の下層(19層、前回遺構埋土の可能性を指摘した層)は、弥生時代の遺物(時期不明)を含む包含層と判明。 上層のロームブロックを含む19層は弥生時代終末期後半の遺物が出土(- 2)。

北東側丘陵

遺構名	指導内容	指導に対する結果及び調査状況
SD64	<ul style="list-style-type: none"> 延長部分を確認するため、8区からT2の間に追加トレンチを入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> T5、6からSD64の延長部分を確認。少なくともT2までは延長することが判明。
SI119	<ul style="list-style-type: none"> SI119は追加トレンチにより範囲を確認。大型であった場合、断ち割りを入れる。 SI119とT2の溝(SD76)との関係を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> 床面規模は東西8.4m、南北9.0m、推定床面積55㎡の大型竪穴住居跡。 平面形は円形。時期は床面直上から弥生時代終末期(2)の遺物が出土。 床面には貼床が貼られ、中央部に中央ピット、壁側には壁溝を伴う。壁溝から約60cm内側に柱跡を確認。 斜面上方に重複する竪穴住居跡を確認。 堆積状況は、床面中央部まで黒褐色土が堆積していることから、自然堆積と考えられる。 北西部分で溝の痕跡を確認。SD76に続くと考えられ、SI119に伴う排水溝の可能性もある。

9区

指導内容	指導に対する結果及び調査状況
<ul style="list-style-type: none"> 大型竪穴住居跡を検出した場合、断ち割りを入れる。 住居群間の遺構については、必要に応じて断ち割りを入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 大型竪穴住居跡は分布しない。 住居群の間には、掘立柱建物跡1棟、段状遺構1基、土坑、溝を確認。このうち段状遺構(SS50)、溝状遺構(SD84)に断ち割り調査を実施。